

【町長】

通告順	1	質問 議員	鵜野議員
質問 項目	食料システム法を活用した地域農業の持続性の確保について		
質問 内容	令和 8 年産のホクレン仮渡金は、「ななつぼし」で 17,000 円と決定しました。国のコスト指標 20,535 円を大きく下回り、北海道では委託費（除雪費や融雪費等）や乾燥調製費（灯油を含む燃料費や施設利用料等）、土地改良区負担（区画整備や施設維持費等）が重いため、同じ 17,000 円でも全国で最も再生産が困難な地域となっています。 町内の農業者から、肥料・燃料の高騰、資材価格の上昇、そして取引価格の低迷により、経営の持続性に対する強い不安の声が寄せられています。農業は本町の基幹産業であり、その持続性を確保することは、行政の基本的な責務であると考えます。 今年 4 月より、「食料システム法」が制定され、これは取引当事者に対し、コスト上昇を理由とした価格協議の申出に誠実に対応する努力義務が課されています。また、商慣習の改善や、食品事業者の計画認定制度による設備投資支援など、地域農業の持続性を高めるための具体的な仕組みが整備されています。 質問 1 町として、この状況を「再生産困難」と認識しているか。 またどの様に考えるか。 質問 2 町として、地域農業の持続性確保のため、この食料システム法を活用し、農業者の価格協議や取引環境の改善を支援していけないか。 または何か対策を考えているのか、今後の町の方針を聞きたい。		

【町長】

通告順	2	質問 議員	長野議員
質問 項目	新るもい号で留萌市・北空知共同の交通体系再構築を		
質問 内容	本年 4 月、JR 北海道は、「JR に乗るならえきねっと限定 JR きっぷが便利！」の触れ込みのスタートでしたが、今もなお不満や不安の声があります。 これに対し、高速バス「高速るもい号」は、全席自由・安い・深川札幌間 98 分で利用しやすいもう一つの公共交通機関としての選択肢がありました。しかし 7 月下旬、北海道中央バスから「高速るもい号～深川経由便が 9 月末日で廃止」の発表がありました。理由は、運転手不足と利用者の減少によるとの事でした。町民からは「もう滝川経由の碧水しかないね」との声も聞かれますが、北空知住民の公共交通はこのままで良いのでしょうか。現状の深川市立病院前経由の維持が困難であることを踏まえ、沿線自治体共同の「高規格道路を活かした新たな交通体系再構築」のチャンスと捉えてはどうでしょうか。 1, 高速るもい号（深川経由）の廃止は、北空知、留萌市共通の問題である現状を鑑み、沼田町はこのことについてどのように考えているのか。 2, 留萌市・北空知共同における住民の公共交通の確保を推進する「（仮称）新るもい号を走らせる協議会」を立ち上げ、乗降所、コース、停留所までのアクセス等について検討、協議し、持続可能案を北海道中央バスへ要望してはどうか。		

深川経由高速るもい号 廃止予定の便 ✕ 資料 1



高速乗合バス(路線バス)

2026年4月1日～2026年11月30日まで有効

留萌 ↔ **深川** ↔ **札幌**

●お問い合わせ 札幌(タ) ☎(0570)200-600
 滝川営業所 ☎(0125)24-6191 FAX(0125)24-6194
 深川営業所(空知中央バス) ☎(0164)26-3111

中央バスホームページ <https://www.chuo-bus.co.jp/>
 モバイルバッテリーはトランクルームへの預入荷物に入れないでください。
 お客様のお手元にて保管をお願いいたします。

留萌↔札幌 運賃 大人2,910円 小人1,460円
 往復乗車券 5,420円(1枚当り2,710円)
 4枚回数券 (紙)10,700円 (スマホ)10,200円

深川↔札幌 運賃 大人2,040円 小人1,020円
 往復乗車券 3,850円(1枚当り1,925円)
 4枚回数券 (紙)7,500円 (スマホ)7,200円

※4枚回数券の有効期限は、ご購入日より6ヵ月となります。

留萌(タ)	合同 庁舎前	深川市立 病院前	雨竜市街	滝川駅前 ③のりば	時計台前	札幌駅前		札幌駅前	札幌(タ)	滝川駅前 ③のりば	雨竜市街	深川市立 病院前	合同 庁舎前	留萌(タ)
7:57	8:03	—	8:54	9:20	10:53	10:59	深川 I・C 経由	10:10	10:16	—	—	11:48	12:43	12:50
9:00	9:06	10:03	—	—	11:34	11:38		11:00	11:06	12:46	13:03	—	13:56	14:02
14:40	14:46	15:43	—	—	17:14	17:18		13:30	13:36	—	—	15:08	16:03	16:10
15:57	16:03	—	16:54	17:20	18:53	18:59		16:40	16:46	18:26	18:43	—	19:36	19:42
18:20	18:26	19:23	—	—	20:54	20:58		18:30	18:36	—	—	20:08	21:03	21:10

満席の際は、次便以降のご利用をお願いする場合がございます。
 あらかじめご了承ください。

都市間高速バスへのペット(愛玩小動物)持込について、
 お断りさせていただいておりますので、ご理解をお願い致します。
 ※上記取扱いに「身体障害者補助犬法」に定められた補助犬、介護犬等は含みません。

中央バス運休情報

一部の携帯電話では
 ご覧になれない
 場合がございますので、
 ご了承ください。

<https://www.chuo-bus.co.jp/support/stop/>



バス接近情報 サービス 実施中!

QRコードはこちらから→



中央バス接近情報

検索

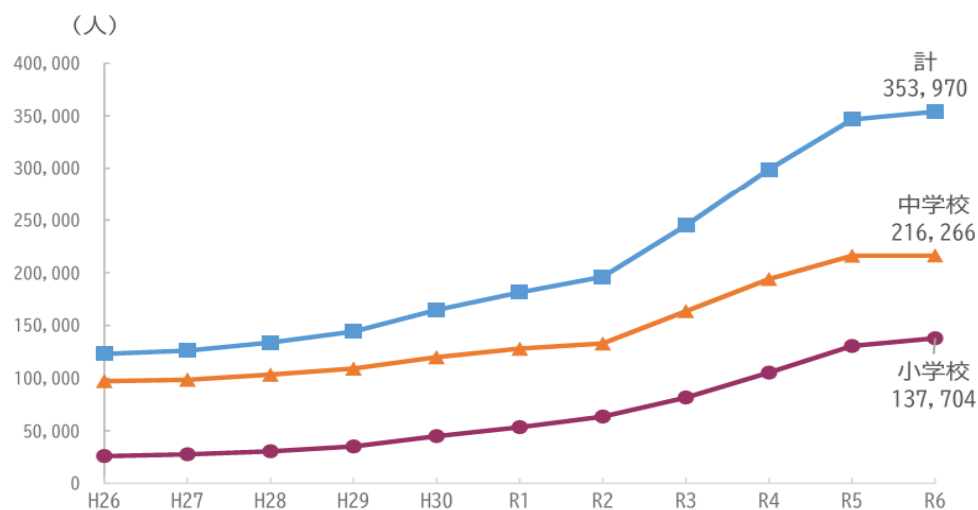
【教育長】

通告順	3	質問 議員	長野議員
質問 項目	沼田っ子が輝くスクールカウンセリング体制の構築を		
質問 内容	全国の小・中・高等学校にスクールカウンセラー（以下 SC）が配置されるようになって、30 年になりますが、その実態は十分とは言えません。 沼田小・中学校では、月に一回あたり 4 時間、多くても月に 2 回の限られた時間での勤務、相談体制となっています。 全道的には、配置時間がさらに短い傾向があり、札幌市（1 週あたり 1 回 7 時間）との地域間格差が顕著になっています。 多くの場合不登校などの問題は、あるとき突然不登校になるというよりも日々の学校生活の中で、子どもなりの様々なサインを出しながら、それらが積み重なって、最後に学校に行けなくなってしまうというケースが散見されます。 子どもが思いつめて「学校に行きたくない」、「体調不良で行けない」状態になってから対応するよりも、早期に教職員と SC とが現状を共有して協力できる体制があれば、より児童・生徒や保護者にやさしい支援になるのではないのでしょうか。 SC の業務は年々多様化しています。児童・生徒への直接的なカウンセリングだけでなく、保護者への支援、教職員へのコンサルテーション、事件・事故発生時の心理的ケアなど、その役割は広範囲に及んでいます。 近年は問題行動や不登校、いじめ、SNS トラブルなど、子ども達を取り巻く問題は地域と関係なく複雑化しており、限られた時間内での対応には限界があります。問題解決のために教職員とケース会議等の話し合うための時間の確保も必要です。 全国的に見ると一部の自治体では、SC 派遣を拡充するなど、支援体制の強化に乗り出しています。北海道においても、少しずつ配置時間を増加させ、人材育成のための予算措置も徐々に進められていますが、改善には至っていません。 1、 名実ともに「子育て日本一」の町にしていくためにも、地域間格差の解消を図って、沼田町の子どもたちが支援を受けられる体制づくりを進めていく必要があると考えますが教育長の見解は。 2、 今後、「卓球留学プロジェクト」などによる児童・生徒の環境の変化や新たな人間関係などの悩みも想定されますが、沼田町の独自の財源を使ってでも沼田っ子が輝くスクールカウンセリング体制の構築を望みますが教育長の見解は。		

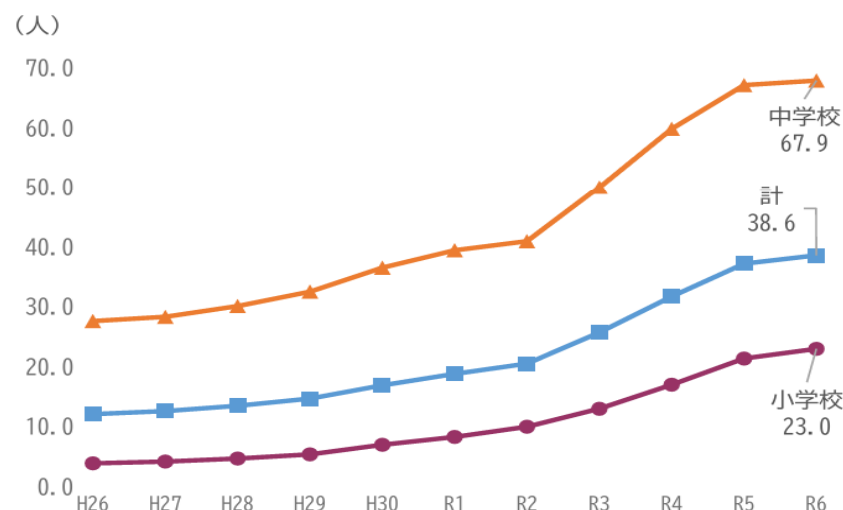
小・中学校における不登校の状況について

- 小・中学校における不登校児童生徒数は353,970人(前年度346,482人)と過去最多となり、12年連続で増加したものの、増加率は小学校5.6%(前年度24.0%)、中学校0.1%(前年度11.4%)、小・中学校全体2.2%(前年度15.9%)であり、前年度から低下した。
- 児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は38.6人(前年度37.2人)であった。

不登校児童生徒数の推移



1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350	81,498	105,112	130,370	137,704
	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0	13.0	17.0	21.4	23.0
中学校	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777	163,442	193,936	216,112	216,266
	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9	50.0	59.8	67.1	67.9
合計	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127	244,940	299,048	346,482	353,970
	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8	20.5	25.7	31.7	37.2	38.6

■ スクールカウンセラーの配置状況(全国)

	週4時間 以上	週4時間 未満	不定期 配置	配置無し
小学校	24.4%	38.6%	28.3%	8.7%
中学校	64.5%	21.5%	11.6%	2.4%

(出所)文部科学省の令和4年度「学校保健統計調査」を基に東洋経済作成

【町長】

通告順	4	質問 議員	伊藤議員
質問 項目	バス転換道路の安全対策を		
質問 内容	本年 4 月より、ＪＲ留萌本線の廃止に伴いバスが主要となる公共交通機関の運行が始まりました。沿線自治体では度重なる協議を行い、運行に至るまでの準備を進めてきたところですが、運行開始後の道路の安全対策が必要と考えます。 令和 8 年度の予算特別委員会で担当課に同様の話をさせていただき、沼田町は年に数回行われる関係市町の会議において安全性確保の必要性を提案していただいていると聞いておりますが、関係市町の認識の温度差もあろうかと思えます。 全国各地で異常気象の影響を受ける昨今、生活や通勤通学の基幹道路の除雪体制の確保や防雪柵による雪害対策が求められ、沼田町だけでなく、主要となるバス路線全体を見通した安全と運行の確保が必要と考えます。併せて、救急など緊急性のある車両が走行できる道路の確保も重要であり、北空知の中核病院である深川市立病院に繋がるバス路線を基軸とした道路の安全を関係市町で検証し、環境を整備する必要があると考えますので、以下の質問をいたします。 1. 留萌本線が完全廃止となり、深川方面の往来を生活道路としている町民にとっては道路の安全性、特に冬期間における防雪柵の設置などについての要望は以前からあると考えているが、関係市町協議会において理解は得られているのか 2. 関係する市町、バスの運営会社などにより路線の安全対策や運行に必要な事項を調査し、国や道、道路管理者に安全性と利便性を高める働きかけを行う必要があると考えるがどうか		